

ザンビアの貧困と食料安全保障—貧困の計測、傾向とその要因  
**Zambia's Poverty and Food Security: Measurements, Trends and Decomposition**

Thamana Lekprichakul  
Research Institute for Humanity and Nature

**要旨**

本稿は調査地であるザンビア南部州・東部州における貧困の計測手法と貧困状況とそのレベルと傾向に焦点を当てて検討したものである。ザンビアの貧困は絶対貧困アプローチによって計測され、世帯は月間食料消費支出が最低必須カロリー（最低フードバスケット）の費用に満たない場合に貧困とされる。この食料消費に基づく貧困指標は世帯の食料安全保障へ直接つながっている。1990年の構造調整プログラムの実施と1991/92年農作期に発生した旱ばつは、1993年に農村部と都市部の両地域で貧困層を急増させた。貧困が急増したのは都市部、特にルサカとコッパーベルトであった。ザンビア全体の貧困層は1998年以降の経済成長期には改善の兆しが見えた。この期間の経済成長は都市住民に対して特に便益を及ぼし、ルサカでは貧困層に含まれる人口の減少となった。これに対して、南部州と東部州の貧困は増加の傾向とともに貧富の差が拡大する結果となった。その転換点は2002年であり、南部州と東部州の貧困の傾向は何度かの旱ばつの発生により2000年代初頭に農業生産が影響を受けたためであった。